

「広島市ハイスクールビジョン（素案）」に対する市民意見募集の結果について

<ビジョン全体・「I ハイスクールビジョンの策定に当たって」に関するもの>

頁	意見の趣旨・概要 □：広島市ハイスクールビジョンに盛り込んだもの ◎：今後の教育行政施策の参考とするもの ○：その他（趣旨に賛同する意見など）	広島市の考え方
全体	○ 全体としてよくまとめられている。特に、少子化の進展の中で市立高等学校の担うべき役割についてわかりやすく述べられている。	今後、少子高齢化が更に進行することが予想される中、新しい時代にふさわしい高等学校教育のイメージが湧きやすくなるよう心掛けました。
全体	◎ 高校は、全員がやりたいこと、就きたい職業を見つけることができる場であってほしい。仲間と楽しく、したいときに学習ができ、社会人としてのマナーなども身に付けることができるとうい。全ての人が自分の目的を果たせるようバックアップする高等学校にしてほしい。	一人一人の生徒の幅広い学習ニーズを踏まえ、各高等学校が、それぞれの学校や学科の特色に応じた魅力ある教育課程を編成・実施する中で御提案の内容について取り組んでいきます。 (ビジョンP. 9)
1	◎ 高等学校教育は「義務教育の基礎の上」に成り立つという認識で計画が立てられているが、学力が不安定な生徒も見受けられることから、基礎基本の定着は継続して取り組んでいただきたい。	

<「Ⅱ 広島市域内の高等学校の20年後の姿を見据えた今後の取組」に関するもの>

頁	意見の趣旨・概要 □：広島市ハイスクールビジョンに盛り込むもの ◎：今後の教育行政施策の参考とするもの ○：その他（趣旨に賛同する意見など）	広島市の考え方
5	○ 少子化の中で、1学年当たりの学級数を適正規模にすることは賛成。	市立高等学校の適正規模については、学校や地域の特性・実情により一概に論ずることが困難であることから、本市の高等学校における生徒数や学級数等の適正規模について、具体的な数値で示すことはしていません。
5	◎ 「適正規模」とあるが、広島市の高等学校の「適正規模」は、示さないのか。	
6	◎ 「真の学力」の育成には、評価方法の確立、普及が不可欠である。「新しい学力評価の研究と普及のためのプロジェクト」といった具体的な記述があるとよい。	評価方法の確立・普及については、平成31年度（2019年度）から導入予定の高等学校基礎学力テスト（仮称）や、平成32年度（2020年度）から導入予定の大学入学希望者学力評価テスト（仮称）、平成34年度（2022年度）から段階的に移行していくことが予定されている高等学校学習指導要領の趣旨等を踏まえ、必要な教育内容、学習・指導方法、教育環境と共に、転換を検討する必要があると考えています。 今後は、御提案いただいた内容も含め検討課題とさせていただきます。 (ビジョンP. 6)
6	◎ 「広島広域都市圏内における公立・私立間の役割分担の在り方等について長期的な視点から取り組む必要性などに関する議論が行われている」とあるが、市立高校の学区を広域都市圏まで拡大することまで検討しているのか。	現在、広島市総合教育会議において、「将来の生徒数の減少をも見据え、的確に対応していくために中・長期的な視点に立った広島広域都市圏内における戦略的な施策展開と連動させながら、公立・私立の受入体制等の在り方について検討を進めるとともに、公立・私立それぞれが特性を生かし、個性を最大限に生かす教育を提供するための環境を整備する」ことが必要である旨、本市教育大綱に盛り込むための議論が行われています。
6	◎ 「広島広域都市圏内における公立・私立間の役割分担の在り方等について長期的な視点から取り組む必要性などに関する議論が行われている」とあるが、具体的にどのような議論がなされているのか。	今後、同会議での議論の状況を踏まえつつ、県市の総合調整や広域都市圏の担当部署等とも協議の上、同都市圏の公立・私立間及び県・市間の機能分担の在り方を幅広く議論する場の設定方法等について検討していきたいと考えています。
6	◎ 「県・市間の機能分担の在り方」とあるが、どのような分担を想定しているのか。	

頁	意見の趣旨・概要 □：広島市ハイスクールビジョンに盛り込むもの ◎：今後の教育行政施策の参考とするもの ○：その他（趣旨に賛同する意見など）	広島市の考え方
6	◎ 「ソフト面の充実」について、「豊かで深い学び」の実現に向けて、ICT環境の整備が必要であると考えます。	探究を中心とした対話的、主体的な学びである「豊かで深い学び」の充実に向けた取組等を進める中で、御提案のICT環境の整備や研修等の充実について引き続き検討します。
6	◎ 「20年後の姿を見据えた今後の取組」について、教員の資質向上が重要と考える。教員の世代交代が進む今を好機と捉え、「豊かで深い学び」の実現に向け意欲をもって指導方法を模索する教員を中心に位置づけ、研修等を充実させてもらいたい。	
6	◎ 今後ますます科学技術が発達し、就職した後も高度な先端技術を身に付けなければならなくなる可能性が高い。働きながら高等教育機関で学べるような夜間大学、大学院の設置など、生涯を通じて学び続けられる環境を高校生に示していただけるとありがたい。	技術革新等の影響による社会・環境の変化への適応については、先を見通すことが難しい状況にあってもこれまで以上に重点的に一人一人の人間力を高め、社会の担い手として必要な力を育む中で取り組んでいきます。 (ビジョンP. 9)

<「Ⅲ ハイスクールビジョンの実現に向け、目指す人間像と重点を置く教育」に関するもの>

頁	意見の趣旨・概要 □：広島市ハイスクールビジョンに盛り込むもの ◎：今後の教育行政施策の参考とするもの ○：その他（趣旨に賛同する意見など）	広島市の考え方
8	◎ 広島市の高等学校教育が目指す人間像「志高く、世界に誇れるまち Hiroshima を創造する人材」の「Hiroshima」がローマ字なのはなぜか。	市立高等学校で学んだ生徒たちが、国際社会で活躍する人材や、地域社会に根ざしつつ世界へ向けて発信する人材となるように、との将来展望をローマ字で表現しました。 (ビジョンP. 8)
8	○ これまでの「広島らしい新しい教育」の推進、充実を図りながら、「新しい時代にふさわしく、人間力を高める高等学校教育を通じて育成する人間像」として本市高校教育の理念を掲げており、ビジョンとしてふさわしいものになっている。	広島市の高等学校教育が目指す人間像に掲げた「志高く、世界に誇れるまち Hiroshima を創造する人材」の育成を目指し、市民の期待に応える「魅力ある高校づくり」に努めます。
8	□ 今後、益々、人間にしかできない創造性の発揮が求められる時代となっていく。「21世紀型スキル」の重要性に鑑み、全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力として、「創造力」を追加してはどうだろうか。	近年、国の研究機関等が子どもたちに身に付けさせたい「資質・能力」を様々な形で示しています。本ビジョン素案の作成に当たっても、重点を置く教育を検討する際、それらの資質・能力を参考にしてきました。御提案いただいた「創造力」は、これからの時代に求められる思考力に関連するものですが、御指摘のとおり、現時点の素案にはその記述がないことから、確かな学力、豊かな心、健やかな体をはじめとする、これからの時代に求められる資質・能力として「創造力」を追記することとします。 (ビジョンP. 8)
8	○ 高校進学率が95%を超えているという現状であり、日本では高等学校で初等中等教育を完結させることが当たり前になっている。「重点を置く教育」が「全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力の育成」と「多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応」として整理されており、新しい時代にふさわしい高等学校教育の実現に向けた方針が明確になっていてわかりやすい。	広島市の高等学校教育が目指す人間像に掲げた「志高く、世界に誇れるまち Hiroshima を創造する人材」の育成を目指すためには、「共通性の確保」と「多様化への対応」の観点を軸とする高等学校教育の提供が必要であることから、これを踏まえた項目分けに努めました。

頁	意見の趣旨・概要 □：広島市ハイスクールビジョンに盛り込むもの ◎：今後の教育行政施策の参考とするもの ○：その他（趣旨に賛同する意見など）	広島市の考え方
9	○ 「社会・環境の変化への適応に必要な力の育成」については、非常に大切な視点だと思う。一人一人背景の異なる生徒の希望進路の実現を支援する取組を期待している。	生徒一人一人の多様な進路に応じた教育に重点を置くため、国の施策や全国の高等学校等での先進的な取組における成果等も踏まえて対応していきます。
9	◎ 「多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応」に向けて、普通科という概念を根底から見直し、将来の自己実現の選択肢を広げる独自の高等学校を設置することも考えていただきたい。	<p>これからの本市の高等学校教育の充実を図るため、今後10年間程度は「魅力ある高校づくり」のソフト面の充実を図ります。</p> <p>また、併せて、市域の周辺部を含む県立・市立・私立学校の設置主体が、それぞれの特性を生かした多様な教育を提供しつつ公立・私立間及び県・市間の機能分担の在り方について幅広く議論する場を設定し、検討を進めることとしています。御提案いただいた普通科の在り方についても、その中で検討するよう考えています。</p> <p>（ビジョンP. 6）</p>
10	◎ 教育課程を充実（道德教育、ボランティア活動、哲学教育、芸術教育、体験活動等）させてほしい。	各校の特色を踏まえた具体的な取組については、現在策定作業中の「ハイスクールビジョン推進プログラム」（計画期間：平成28年度（2016年度）から平成37年度（2025年度）までの10年間）の中で示すよう考えています。
10	◎ 「共通性を確保した上で提供する多様な教育の方向性」の各課程、学科、コース、学校はよく整理されているが、もう少し各校の特色を踏まえた具体的な方向性を示してもらえるとイメージしやすいように思う。	（ビジョンP. 3）